

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例

E. 学習・研究環境の改善

⑤その他

⑤その他

《人社系》

●上智大学グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻

「現地拠点活用による協働型地域研究者養成」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

カンボジア王国シェムリアップ市におけるアジア人材養成研究センターを学生の現地調査拠点として活用するのに加えて、これをモデルにエジプト・アラブ共和国カイロ市にカイロ研究センターを開設し、プロジェクトPDを常駐せしめたが、同様の研究センター開設を目指したメキシコ合衆国での活動は、複数の教育研究機関との交渉が不調であり、プログラム実施期間内に実現することができなかった。また、カイロ研究センターについても、これを正規に現地で登録された団体とするための手続きがきわめて煩雑で現段階でも完了しておらず、加えて政変が起こるなど、維持管理に困難を来した時期もあった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

研究者や学生が個人で滞在している場合にも、本専攻の対象とする地域の国々では、行政的手続き等の面で様々な困難を伴う場合が多いが、組織として現地に拠点を有することの困難はその比ではなかった。しかし、必ずしも充分といえない形であっても拠点を有することは、現地で調査する学生にとっても、日本で研究している学生にとってもきわめて有益であることも明らかで、資金と人的資源を投下する価値はあり、結果として数々の不安材料を抱えながらの運営を継続しなくてはならなかった。また、本専攻の対象地域はカンボジア、エジプトに限らず、広範囲に広がっているため、現地拠点利用の効果が、上記2カ国以外の国を専門とする学生に及びにくいのも問題であった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

海外拠点に駐在したPDや拠点を利用した学生との間で、取組代表者や事務局が密に連絡をとり、生じる様々な問題に対処しつつ、有効利用の仕方について様々な知恵を出し合った。カイロ研究センターの場合、団体登録に向けた手続きのかなりの部分が明らかになったが、独立した事務所を確保することを含め、解決すべき問題はまだまだあって、なお交渉継続中のメキシコ研究センター(仮称)とともに、さらに長期的な取り組みが必要である。プログラム実施期間中から、本専攻を修了した現地出身者をセンターの運営に積極的に関わらせたり、より小規模でより多くの海外拠点の設置に、現行拠点の拡充と併せて取り組んだりなどの対応も検討すべきであったかと思う。

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例

E. 学習・研究環境の改善

⑤その他

《理工農系》

●広島大学生物圏科学研究科

「食料・環境系高度専門実践技術者養成」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

- ・ Newton 社の TLT training soft を導入し、学生が Web 上で英語のトレーニングをできるようにした。基本的に、修士課程および博士課程 1 年生に 6 ヶ月間の自主学習を提供し、トレーニング前後に TOEIC 試験受験を勧めた。英語の重要性を認識している学生にとっては、効果的であったが、英語力（特にコミュニケーション）向上に関心の低い学生は、ほとんど Web にアクセスせず、TOEIC スコアの上昇に繋がらなかった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

- ・ 英語力の重要性の認識に関して、学生間で大きな差があり、全ての学生の英語力上達には、繋がらなかった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

(結果が望ましいものでは無かった場合)

- ・ 英語力の向上については、学生の自主学習に任せず、カリキュラム内である程度強制力を持たせないと意識の低い学生には効果が期待できない。修了要件に TOEIC スコアを明記し、学生の意識を変えさせることも一改善策かもしれない。